

# よりのそう

2012.5.24(木)

第178号

編集責任

ギョウエイ容子

5/25(金) 天気 晴れ  
 11 晴れのち曇り  
 12 気温 最高 20℃ 最低 14℃  
 降水率 0%  
 (大船渡)

## 「五年後に必ず来ます」

### 壱岐土地改良区東北復耕支援

ボランティア隊 隊長 辻 樹夫



1年2ヶ月前の5/18私は夕方のミーティングで述べた「明日早朝壱岐島に帰る今回は単身で来たが、60歳のこの歳になって初めてボランティアの何たるかを教えてもらった。1年後に今度は何人か連れてまた遠野に来たい」。そして今回約束を果たすことが出来た。私も昨年3月定年退職後の今は農業者の一人。「まごころ百姓隊」が結成されているのをネットで見て、時期を窺っていた。4月その時期が到来した。直ぐに地元新聞に今勤めている「壱岐土地改良区」の名前を冠して募集した。23年度は壱岐市が三次にわたり「長崎・壱岐・活き応援隊」を宮城県松島市、南三陸町にボランティア隊を派遣した。今回は民間団体主導のいわば第四次隊。58歳から72歳まで平均年齢62.5歳のオジン達が15名揃った。壱岐からここまで36時間の片道で到着。

現地作業は大槌町、釜石市箱崎、陸前高田市上長部と短い三日間だったが農地復耕支援のお手伝いが出来た事にみんな喜んで帰った。何よりも嬉しかったのは私の高校同級生のギョウエイ容子さんがカナダから此処に来ていたことだ。世間は狭いしかし支援はグローバルだ。毎晩壱岐のFMラジオに生出演しその日の作業内容を15分程度壱岐市民に報告した。次の部隊結成を促すためだ。その準備も出来た。5/21は地元報道機関に共同記者会見、29日は市民を集めて報告会。その席には「まごころ百姓隊」の斎藤正宏さんを壱岐に招待することにした。

もうひとつメンバー15人で約束したのは「五年後にこのメンバーでこの遠野を訪れて、復耕支援に行った三地区の被災地の状況を自分たちのこの目で確認しよう」である。それまで健康管理を自己責任でやるのが大前提だ。仮に約束を反古にせざるを得ない状況に陥った場合は子や一族郎党にしっかり言い残して逝けとも加えた。しかし、被災地は五年も待てない。まずは後続部隊を送り込むことが我々の責務だ。19日に壱岐に帰島し出迎えに来た市長や家族・知友人の前でこのような挨拶をした。



5/24(木) ボランティアミーティングはPM5:10PM 男性棟

5/23(水)の活動者数: 69名

5/23(水)の宿泊者数: 59名